

読売ジャイアンツ阿部慎之助選手に対する配球

細田 椋大 (競技スポーツ学科 コーチングコース)

担当教員 北村 哲

キーワード: 阿部慎之助, 配球, カウント

1. 緒言

近年, 日本のプロ野球は壮絶なる頭脳戦となっている. 様々な状況で打者をいかにして打ち取るかがチームの勝利へのキーポイントとなる. 読売ジャイアンツの阿部真之助選手はツイスト打法という独特な打ち方でも有名で, 2011年以降の両リーグ最高打率.318を誇り, 2012年には首位打者, 打点王, 最高出塁率の3つのタイトルを獲得した選手である.

頭脳戦の一事例を明らかにするには, 指導やパフォーマンスの向上に貢献すると考えられる. トップ選手の模倣が, 競技力向上の方法として最も容易であり, 配球の事例を明らかにすることは有用である.

本研究は日本プロ野球リーグの壮絶なる頭脳戦の一事例を明らかにすることを目的とし, 球界を代表する阿部慎之助選手に対する配球について調査した.

2. 研究方法

1) 対象

2013年日本プロ野球機構におけるクライマックスシリーズ, 日本シリーズにおける阿部慎之助選手の全打席.

2) 調査項目

阿部慎之助選手に対する配球. ①カウント, ②コース(O:アウト, C:センター, I:イン, L:低め, H:高め), ③球種

3) 分析方法

前述の①, ②, ③について単純集計およびクロス集計を行い, 阿部慎之助選手に対する配球の傾向について検討した. カウントについては古田(2009)を参考に投手有利(1-0, 2-0, 2-1, 2-2), 打者有利(0-0, 0-1, 0-2, 0-3, 1-3), 五分五分(1-1, 2-3)の3つのケースに分類し, 分析を行った.

3. 結果と考察

投手の基本的な配球の組み立ては, ストレートとスライダーでアウトコースや低めを攻めるものであった. 投手有利時に変化はなか

ったが, 打者有利時には球種の割合が変わり, インコースと高めの割合が多くなった. 五分五分時には変化球にばらつきが見え, 高めの割合が多くなった.

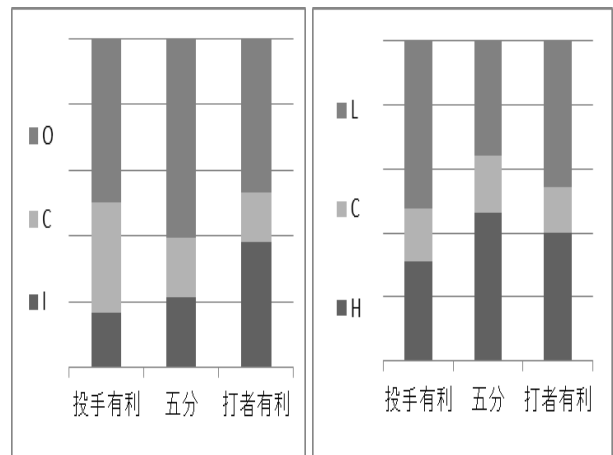


図1 コースの割合

図2 高さの割合

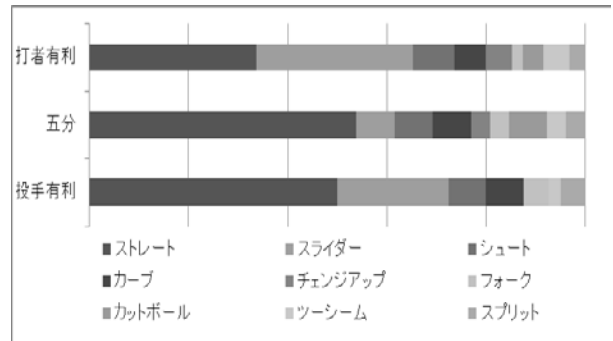


図3 球種の割合

4. まとめ

本研究の結果から投手は基本的な配球の組み立てを変えることはないが, ピンチ, 五分五分の場面になると組み立てを変化させることが多いとわかった.

引用・参考文献

古田敦也(2009)フルタの方程式. 朝日新聞出版:東京都

山本誠二ら(1991)高校野球のゲーム分析-攻撃が予測される場面での投手の配球に関する研究-. 日本体育学会大会号, (42B)p. 727.